

カンパラ通信～ナカセロの丘から

第25回 本田ソルティエロよ、東アフリカ・サッカーの実力の底上げを！

日本での8月のスポーツ関係ニュースは高校野球甲子園大会で大いに盛り上がっていましたね。他方、6月のサッカーのワールドカップで日本代表として出場した本田圭佑選手がカンボジア代表のジェネラル・マネージャーに就任し、実質的にも監督の役割を担うというニュースが大きく取り上げられました。そして、ここウガンダの8月では奇しくもウガンダのサッカー1部リーグのチームであるBright Starsに日本企業のYoshino Tradingがスポンサーになったことが大きく報じられました。実は、Bright Starsは本田選手に深く関係する会社を実質的に所有しています。こういった縁から今回は本田選手とウガンダとの関係を取り上げることにしました。

さて、本田選手がオーストリアのSVホルンの経営権を取得してそのチームを拠点にして日本人の才能のある選手の育成に乗り出していたことはよく知られていると思います。そして、アジアの若者にサッカーを通じて夢を持って成長してもらいたいとの願いから2016年にはカンボジアの「アンコールFC」のオーナーとなっています。



(本田選手と地元少年との交流)



(本田選手と並ぶ筆者)

同じようなことをアフリカでも展開しようという思いから、本田選手のマネジメント会社のホンダ・エステーロの関係者が2016年秋ごろから調査を開始しました。サブサハラのアフリカでサッカーの強豪と言えばナイジェリアやカメルーン等が良く知られているとおり何といっても西アフリカです。ある意味で西アフリカではサッカー選手を育てる地盤というものが既にあると言えます。それに引き換え、決して体力的には劣るはずがない東アフリカ地域の若者が才能を伸ばす環境にないということから、この地域を中心にどこをアフリカの拠点にするかを調査して、最終的に2017年春にウガンダのカンパラに決めたということです。2017年のシーズンを終えてACミランと訣別したばかりの同年

6月に本田選手が、国連関係のNGOである国連財団の「青少年のための国際的な支援者」として、いわば同財団の親善大使的な役割でカンパラを訪問しました。この訪問ではカンパラ郊外のグラウンドでサッカー学校に通う少年たちを激励したり、日本のあしなが育英会がウガンダにおいてエイズ孤児のケアをしているあしながウガンダのレインボーハウスを訪ね、子供たちと交流する時間を持ち、Tシャツをプレゼントしていきました。この訪問には日本のメディアも同行していて、本田選手のウガンダ訪問に関しては日本でもスポーツ紙を中心に報道されました。この機会を捉えて、私も本田圭佑選手を大使公邸に招いてゆっくりお話を聞かせていただきました。本田選手が設立したホンダ・エスティーロによる子供たちのサッカー学校の営業、地元サッカー・チームを買収し、一流選手を育てるといふ事業を考えているとこれからの活動方針を話してくれました。ウガンダで企業登録もしなければならないので、こちらからいろいろ支援する用意があると協力を提供しましたが、その必要はなかったようです。本田選手は、一本筋の通ったしっかりした人物であること、そしてサッカーを超えて社会のあるべき姿などを真面目に考える視野の広い方であることに深く印象付けられました。



(ソルティーロ・ウガンダ代表田淵氏
と Bright Stars CEO との署名式から)



(Bright Stars の選手の面々)

既に頭にあった方針に基づき、ウガンダでのサッカー事業の開始として、ソルティーロ・ウガンダ (SOLTILO UGANDA LTD.) を立ち上げます。そして、このソルティーロ・ウガンダが2017年9月に Bright Stars の株式の大半を取得して実質的にこのチームのオーナーとなりました。ウガンダのサッカー1部リーグであるプレミアリーグは16チームで競い合っています。昨シーズンの Bright Stars の目標は6位以内でしたが、残念ながら結果は8位でした。9月に始まる今シーズンでは6位ではなく、是非ともベスト3に入ってもらいたいものです。もうひとつの重要なホンダ・ソルティーロの活動が東アフリカのサッカーの才能のある若者を育てるといふことです。そのために、2017年12月以来ウガンダ、ケニア、そしてルワンダの3か所で日本人コーチを派遣して1ヶ月から2か月間のサッカー教室を順番に開講しています。このプロジェクトは、「AFRICA DREAM SOCCER TOUR

supported by Car-tana.com」と名付けています。その中で特に才能のある少年を見つけて、地元のサッカー・アカデミーに通わせ才能を開花させようとしています。ウガンダでは、本年5月に開講し、あしながウガンダの支援を受けているエイズ孤児を対象にトレーニングをしています。サッカー教室の開講式には、私も出席しました。因みにこの東アフリカ・サッカー教室の運営責任者の二村氏ですが、何と彼は2013～15年の2年間青年海外協力隊員としてウガンダに滞在していた経験を有しています。また、このサッカー教室のコーチ役を担っている2名の青年も青年海外協力隊出身者でそのうちの一人もやはりウガンダ滞在経験者です。このような面でもウガンダとの縁があることに不思議な縁を感じます。このサッカー教室ですが、その活動にはCar-tanaという中古車販売サイトを運営する株式会社じげん（ZIGExN）や開発途上国向けに簡易トイレを販売しているLIXIL社を含む7つの日本企業がスポンサーとなっています。



（サッカー教室の開始式）



（サッカーを学ぶウガンダの子供たち）

こうしたホンダ・ソルティー口の活動に賛同して今回 Bright Stars のスポンサーとして名乗りを上げたのが、冒頭に紹介しましたヨシノ自動車（YOSHINO MOTORS）です。川崎市に本社を持つヨシノ自動車は、国内でトラック販売を中心としつつも車に関することなら何でも手掛ける幅広い事業内容を誇っています。ウガンダでは2012年から Yoshino Trading として中古商業車を販売しています。そして、これまでは現地人で営業してきたのですが、本年から日本人スタッフを送り込んでテコ入れをしたばかりです。何とその日本人スタッフも青年海外協力隊の経験者です。Bright Stars のスポンサーとなることを発表するための8月の記者会見は、Bright Stars のカンパラ郊外のホーム・グラウンドで行われました。この記者会見には中西社長が自ら日本から出張して来て出席しました。この模様は、現地のTVはもちろん日刊紙にも大きく報道されました。私も中西社長の横に座って歓迎のスピーチをさせていただきました。

このように、ウガンダ、そして東アフリカのサッカー界に本田選手が乗り込み、この地域の子供たちにサッカーを通じて夢をもって諦めずに前へ進む大切さを知ってもらおうべく頑張っていること、そのために東アフリカのサッカーのレベルを引き上げサッカー界の発展に貢献しようとしていること、こうした活動に青年海外協力隊経験者が深く参画していること、さらにはこうした活動を日本企業が支えていることを、今回のカンパラ通信で知っていただけたなら幸いです。そして、遠くから Bright Stars を応援していただきたく存じます。



(Bright Stars のスポンサーとなるヨシノ自動車を大きく報じる地元新聞記事)

(以上)